

ポルトガルの旅②

8月6日

今日の午後は、コインブラからポルトに向かう。世界遺産「ポルトの歴史地区」。

ここは是非訪れたかったところだ。

大航海時代を象徴する町だ。サンフランシスコ教会を見たあと、ドウロ川にかかるドン・ルイス一世橋を見学する。対岸には、歴史地区が眺望できる。



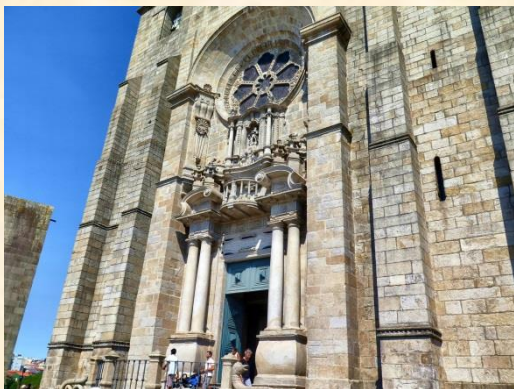
この橋は、1886年にエッフェルの弟子たちによって作られた二重橋で、上層にはメトロが走っている。

上を渡ってみたいが、時間的な制約もあり、翌日にしよう。

ポルトと言えば、やはり「ポートワイン」、醸造所を見学する。もちろん試飲も忘れない。このワインの特徴は、一時発酵中にブランデーを加える。そのため、アルコール度は高いが芳醇な香りが魅力だ。デザートワインとして最適だ。是非土産に買っておこう。



このあと大聖堂に向かう。12世紀にロマネスク建築で建造されたという。入り口にはバラ窓がある。聖堂内部はアズレージョで装飾された回廊があり、祭壇は豪華で壮麗だ。



8月7日

今日は、サンティアゴ・デ・コンポステーラまで往復する。

片道3時間ほどかかった。到着後「歓びの丘」を意味するモンテ・ゴソに向かう。



長いサンティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼の道を歩いて来た巡礼者達が、大聖堂手前にある小高い丘(モンテ・ゴソ)の上に立った時、喜びの感慨にひたった丘だ。

ここからは、遠くにサンティアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂が見える。

ただ、この像の場所は最近造成されたようで、たぶん観光客用の場所なのだ

ろう。少し離れた丘の上にも記念碑のようなものが見えた。

スペインでは、「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路：カミノ・フランセスとスペイン北部の道」、「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」として登録されており、フランスでは「フランスのサンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」として登録されている。これらはまとめて登録できないものかと思う。



大聖堂は、残念ながら修復中で特に「栄光の門」やチュリゲラ様式のファザードが見られなかった。

ただ、聖堂の内部には入ることができ、少し並んで聖ヤコブ像にハグできたのは運が良かった。

聖堂から広場に出たときに、ホタテガイを背中にぶら下げた巡礼者が皆、大聖堂の前で喜び合っていた。その満足した笑顔が印象的だった。



今日は日帰りで、ポルトに戻る。途中山から黒煙が立ち上っている。一瞬緊張感が走る。運転手に聞いてみると「山火事」とのこと。

よく見ると山の数か所から煙が出ている。どうも今年は暑くて各地で山火事が起きているようだった。

ホテルのテレビでも山火事の消火作業が映し出されていた。



ポルトに着いたのは夕方近くだった。

やはり、ドン・ルイス1世橋からのポルトの夜景をみたい。夜だから橋の上でも下はあまり見えず、高所恐怖症の人でも大丈夫と思う。

タクシーで繰り出し、橋の頂上まで来る。ドウロ川沿いのポルトの町並みの夜景は、川面まで光が映し出され、美しかった。遠くには月が微笑んでいた。



8月8日

今日は、ポルトを後にしてリスボン方面に戻る。途中ロカ岬とシントラを訪ねる。ロカ岬では、少し暑かったが大西洋からの爽やかな風が心地よかった。

ここでは「ユーラシア大陸最西端到着証明書」が発行される。いいビジネスだ。日本でも「極東地域到着証明書」を発行したら・・・とふと思ってしまった。

ロカ岬の海岸では、多くの観光客が海で泳いだり、砂浜で日光浴を楽しんだりしていた。時間が許せばここでの～んびりしたかった。



ロカ岬を後にシントラに着いたのが、午後4時頃だった。世界遺産「シントラの文化的景観」として登録されている。夏は涼しく、冬は暖かいと言われているが、とにかく今年は暑かった。様々な建築様式の建物があり、「この世のエデン」とも言われている。ここでは、王室の夏の離宮である王宮を見学する。二本の煙突が目立つ。

